

リレーエッセイ

アルピニズム

第16回 癒しの場としての山

横浜ウォーター株式会社 技術統括部長 小浜 一好

ワンダーフォーゲル部

横浜国大のワンダーフォーゲル部にいたことがあり、山好きですが、「アルピニスト」ではなく、普通の登山愛好者です。なぜ、ワンゲルに入ったかという点、中高時代はサッカーをやっていた、大学に入って競技スポーツではないずっと続けられるものがやりたかったのと、山でも世界でもいろいろ見て回りたい好奇心が旺盛であったのが漠然とした理由ですが、従姉がワンゲル経験者で、その楽しそうな話に影響を受けたのかもしれない。

ワンゲルでは地元丹沢山系へ訓練などでよく行ったほか、奥秩父、南アルプスや大雪山系の縦走からヤブ漕ぎまでいろいろやりました。また、妙高高原に部が所有する山小屋があり、そこを起点に登山やスキーを楽しみました。小屋の水は敷地内の井戸から汲むのですが、ネズミの死骸が入っていたり、とてもそのまま飲む水質ではなく、飲み水は歩いて20分ほどの水場まで汲みに行っていました。水汲みは大変でしたが同時に水の有難さを実感しました。ワンゲルで一緒だった仲間達との付き合いは、まさに“同じ釜のめしを食う”仲で、卒業して40年近く経った今も密な交友は続いています。



横浜国大ワンダーフォーゲル部OB山行（中央アルプス千畳敷）

登山再開

大学卒業後、四半世紀の空白時期を過ぎ、久しぶりにまた登山始めたのが、今から15年程前のワンゲルOB会が主催する丹沢鍋割山登山がきっかけでした。それまでは、共働きで仕事と家庭のことをこなすのに精一杯で余裕がありませんでした。ただ、今思うと工夫が足りなかった気がしますが、OB会は卒業年次ごとに「期」で整理されており、私は17期となります。年3回、立派な会報も送られてきて、ホームページ (<http://ywvob.com>) も盛りだくさんの内容です。OB山行の募集のお知らせも載っていて、熱心に活動している様子が伝わってきましたが、なかなか決断が付きませんでした。その理由は、会ったこともない大先輩たちとご一緒することへの躊躇

躊躇です。なにしろ私達の世代は、先輩は怖い存在でしたから。また、登山用具も長い空白時期にすべて処分していて、新たに買い揃えることにも煩わしさを感じていました。しかし、職場での先が見え子育ても一段落し、少し自分の時間が持てるようになったので、思い切ってOB山行に参加した次第です。参加してみると心配は全くの杞憂で、先輩方の人生を豊かに生きている様子は刺激になったし（何しろ大先輩の1期、2期の70過ぎの方々が軽々ときつい登りをこなしているのには驚きました。）、山の道具も昔の重くて嵩張る物から、機能が向上しているにも関わらず軽量でコンパクトな物に格段に進歩していて、あらためて揃えるのが楽しく、再び山登りにはまっていきました。その内、同期近くの仲間達も参加し始め、なお一層楽しみになりました。そして、度々山に行くようになると、職場での同好の士も見つかるもので、前職の横浜市役所で山好きの輪が広がり、年数回の日帰り中心のOB山行のほかに、八ヶ岳、北アルプスなどの縦走にも行くようになりました。そして、国内だけでなくヒマラヤやニュージーランドをトレッキングするなど、活動範囲を広げて楽しんでいます。ヒマラヤで飲んだ水の冷たさや美味しさは忘れられませんが、同時に首都カトマンズで上下水道の整備が進んでいない状況も印象的でした。

安全で楽しい山登り

日頃の都会生活でのストレスを癒すのには、お酒だったり趣味だったり人によって



ヒマラヤトレッキング（プーンヒルにてダウラギリを背景に ※筆者は右から2番目）

様々ですが、大自然の中に包まれるのが一番というのが持論です。その意味で登山は最適ですが、楽しい登山には、楽しむだけの体力と技術が必要です。一歩間違えば事故につながるスポーツですし、登山中バテて周りに迷惑をかけないように、日々の体力維持が肝要です。大先輩達をお手本に70代後半になっても山登りを楽しめるよう、普段の生活の中で意識することが、体や心にいい影響をもたらしていると感じています。

最後に

今年の夏に北アルプスの薬師岳から室堂までの縦走を楽しみましたが、一つびっくりしたことがあります。それは、山小屋で中国人の団体登山客と出くわしたことです。中国からの日本への観光客が増えています。まさか北アルプスの山の中までとは想像していませんでした。しかし、考えてみれば、中国からわざわざ来ただけ日本の山が素晴らしいということだと思います。自然豊かな日本の山々に感謝しながら、これからも安全で楽しい登山を続けていきたいと思っています。